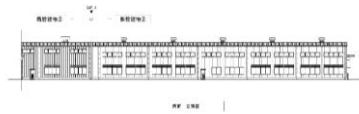


# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ビューテック 株式会社 三好営業所 新設建物②	階数	地下0階地上2階
建設地		構造	S造
用途地域	市街化調整区域、第22条区域	平均居住人員	50人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,160時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年11月 予定	評価の実施日	2024年7月1日
敷地面積	10,769 m <sup>2</sup>	作成者	松浦 孔明
建築面積	2,828 m <sup>2</sup>	確認日	2024年7月1日
延床面積	2,993 m <sup>2</sup>	確認者	兼子 俊彦



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>温暖化影響チャート

★☆☆☆

30%: ★☆☆☆ 60%: ★☆☆☆ 80%: ★☆☆☆ 100%: ★☆☆☆ 100%超: ★

標準計算

- ①参照値: 100%
- ②建築物の取組み: 83%
- ③上記+②以外の: 83%
- ④上記+: 83%

92 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.9

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.4

**LR のスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">76.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{建物面積} - \text{建物面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 ピューテック 株式会社 三好営業所 新設建物②

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>												
<b>Q1 室内環境</b>												
<b>1 音環境</b>												
1.1 室内騒音レベル				3.0	-	-	-	-	-	-	-	2.6
1.2 遮音				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能				-	-	-	-	-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能				-	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	3.0	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-	-	3.0	-	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-	-	3.0	-	-
<b>2 温熱環境</b>												
2.1 室温制御				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 室温				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 外皮性能				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3 ゾーン別制御性				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2.3 空調方式				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
<b>3 光・視環境</b>												
3.1 昼光利用				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光率				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 方位別開口				-	-	-	-	-	-	-	-	-
3 昼光利用設備				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3.2 グレア対策				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 昼光制御				5.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3.3 照度				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3.4 照明制御				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
<b>4 空気質環境</b>												
4.1 発生源対策				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 化学汚染物質				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
4.2 換気				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 換気量				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 自然換気性能				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3 取り入れ外気への配慮				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>												
<b>1 機能性</b>												
1.1 機能性・使いやすさ				-	-	-	0.43	-	-	-	-	2.9
1 広さ・収納性				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
3 バリアフリー計画			独自	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
3 内装計画				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3 維持管理				-	-	-	-	-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計				3.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>												
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.5	2.7	0.52	-	-	-	-	-	2.7
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	2.7	0.33	-	-	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			②	-	2.0	0.23	-	-	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.15	-	-	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	-	-	-
2.4 信頼性				0.1	2.0	0.19	-	-	-	-	-	-
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-	-	-	-
3 電気設備			②	3.0	1.0	0.20	-	-	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	1.0	0.20	-	-	-	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-	-	-

<b>3 対応性・更新性</b>					0.4	3.2	0.48	-	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり					0.3	3.8	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり					-	3.0	0.60	-	-	-	
2 空間の形状・自由さ				壁長さ比率を0.06とした	3.0	5.0	0.40	-	-	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性					0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1 空調配管の更新性			②		-	3.0	0.17	-	-	-	
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						-	0.57	-	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>						-	-	-	-	-	3.4
<b>LR1 エネルギー</b>						-	0.40	-	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	-	-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.13	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.65	3.0	4.5	0.63	-	-	-	4.5
4 効率的運用					0.2	2.5	0.25	-	-	-	2.5
集合住宅以外の評価					1.0	2.5	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	2.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング					-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制					-	-	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>						-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護					0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0
1.1 節水					3.0	3.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.0	0.63	-	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減					-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.25	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.21	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.21	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	躯体と仕上材が容易に分別可能	3.0	5.0	0.25	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒					3.0	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>						-	0.30	-	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率83%	-	3.6	0.33	-	-	-	3.6
2 地域環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止					-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				燃焼設備の設置無し	-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制			独自	導入路へ配慮した出入口の確保	-	4.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音			独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
2 振動			独自		-	3.0	0.33	-	-	-	
3 悪臭					-	3.0	0.33	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制					-	1.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策				広告物照明なし	-	5.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

ビユーテック 株式会社 三好営業所 新設建物②

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.6</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.7	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:76.9%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>				<b>1.0</b>
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 ビューテック 株式会社 三好営業所 新設建物②

計画上の配慮事項	
総合	設備システムの効率化を図り、エネルギー使用量を削減している。
Q1 室内環境	工場・詰所は可能な限り外部に面した開口を設けることで、自然光利用に努めている。
Q2 サービス性能	快適な執務環境にするため、ゆとりある階高、天井高とし、フレキシビリティ性の向上に配慮した計画としている。
Q3 室外環境(敷地内)	周囲の環境に配慮した落ち着いた色彩計画としている。
LR1 エネルギー	LED照明を採用するなど、設備システムの効率化に配慮をしている。
LR2 資源・マテリアル	節水型の機器を用いるなど、水資源の保護に努めている。 また、詰所・休憩室にはOAフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。
LR3 敷地外環境	燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。 広告物の照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。
その他	